

2011年7月3日 京都シンポジウムの全記録

「ただちに健康に影響はない」は本当？  
ビキニ事件の真実と福島原発被災のいま  
—軽視される低レベル放射線内部被曝を考える—

報告1 伊東 英朗（南海放送ディレクター）

DVD 上映「ビキニ事件から見た福島原発被災」

山根 ただいまからシンポジウムを開催したいと思います。司会を担当させていただきます立命館大学の山根和代と申します。よろしくお願いいたします。最初に、南海放送ディレクターの伊東英朗さんにDVD「ビキニ事件から見た福島原発被災」というのを見せていただきまして、10分ぐらいお話しいただきます。合計で30分ぐらいですが、では、DVDをよろしくお願ひします。

伊東 みなさん、こんにちは。南海放送の伊東と申します。DVDは番組の一部を20分に縮めたものです。最初に、私がビキニ事件を書き始めましたのは8年前です。毎年、少しずつ新事実を含めて放送してきましたんですが、ずっと悩みだったのは、半世紀前のこんな歴史物語みたいなものを、いまやって何なんだ、というような声を聞き続けてきました。いまからやっても仕方ないんじゃないかと。ところが、今年3月11日、みなさんご存じの災害・事故が起きました。そこでにわかにこのビキニ事件というものがどういう意味を持つのかということが明確になってきました。この事件をひも解くことによって、福島原発事故の今後10年後、30年後、そして半世紀後、何が起こるのかが、よくわかるのではと思います。そして、国民のいのちを守るべき政府が何をしているのかが見えてくるのではないかと思います。55分の（番組の）中の一部を見ていただきますが、番組の中に登場される、4半世紀にわたってビキニ事件を追っかけて来られた山下正寿先生はじめたくさんの登壇者の方があとで詳しくお話しされますので、映像を少しご記憶いただいて、そのあと先生方のお話をお聞きいただくと内容がよくわかると思います。まず冒頭の部分を見て下さい。

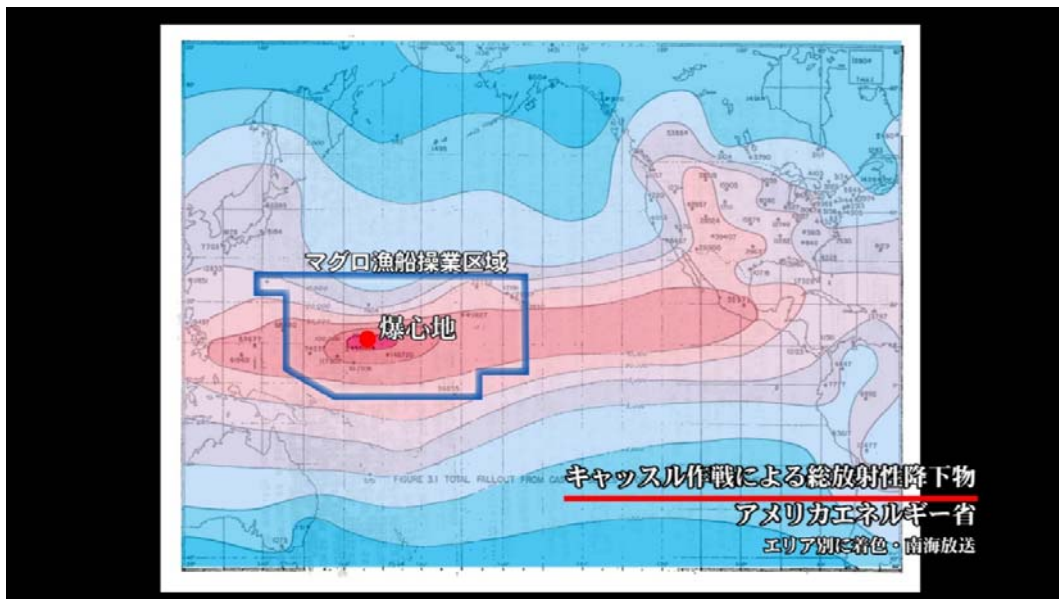
VTR 番組冒頭部分



事件から 57 年。22 年間、山下さんの自宅で大切に保管されていたフィルム映像。そこには、22 年前、山下さんら調査団が聴き取った被災者の証言が記録されている。



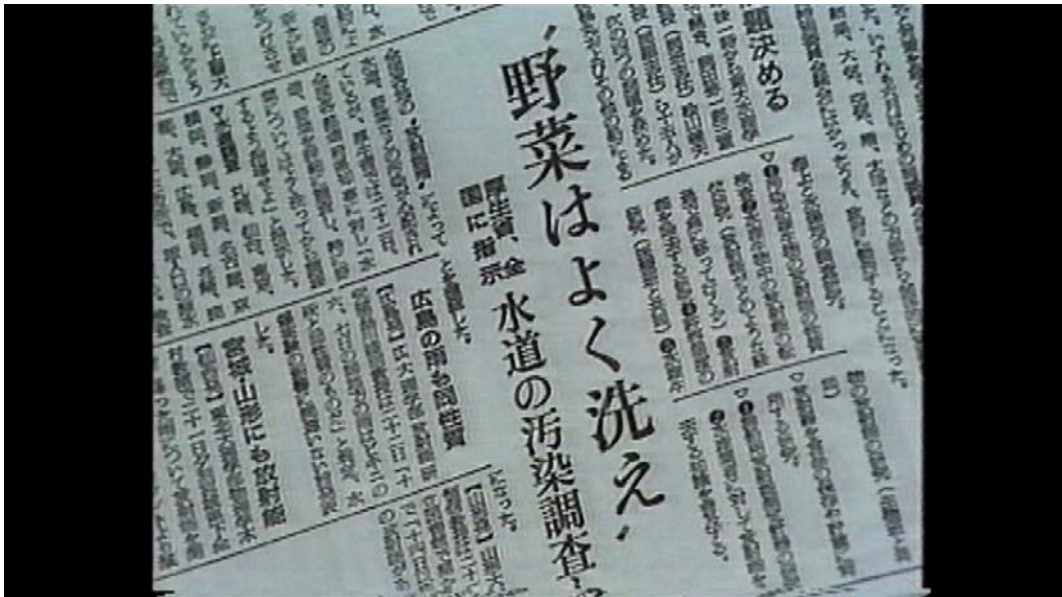
水爆実験の光を、きのこ雲を見たという元マグロ漁船員らの証言。



1954 年、アメリカが太平洋ビキニ島で行った水爆実験。水爆ブラボアの破壊力は広島に落とされた原爆 1000 個分。水爆実験は「キャッスル作戦」と名付けられ、ブラボアを皮切りに 3 ヶ月間に 6 回行われた。水爆が生み出した放射性核種は 27 種類。放射性物質「死の灰」は広大な範囲を放射能で汚染した。

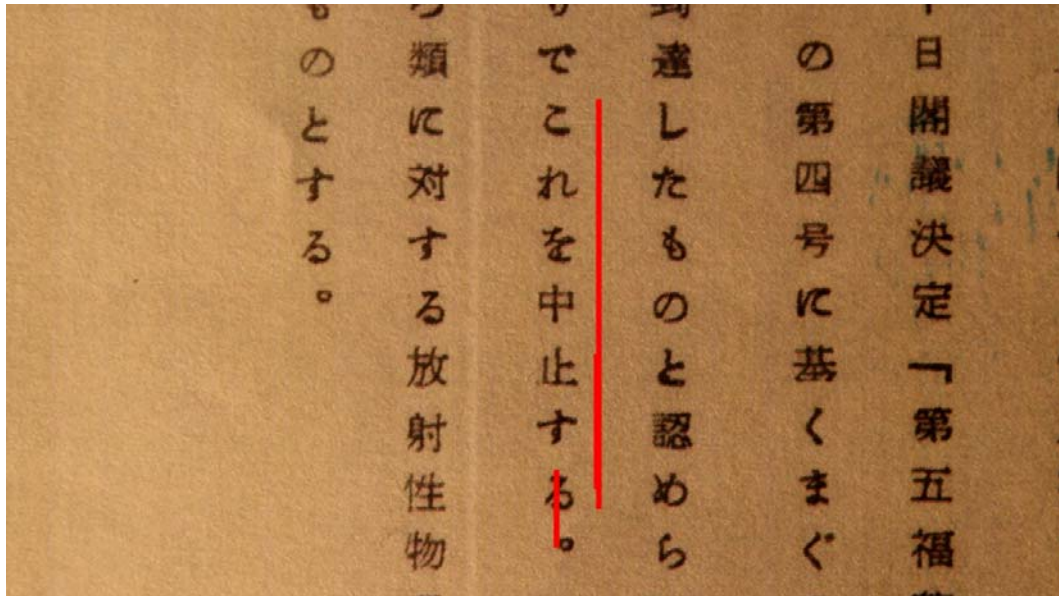
マグロの好漁場でもあった爆心地を中心として放射能が広がっていった。その年、約 1200 隻のマグロ漁船が爆心地をめざした。何も知らない漁船員を放射能は静かに襲う。読売新聞によってスクープされた第五福竜丸はその中の 1 隻だった。通信長の久保山愛吉さんが急性の放射線障害で半年後に死亡。

放射能で汚染された魚を満載し次々帰港するマグロ漁船。港ではマグロ、船体、人体の放射能検査が行われた。各港には連日、ガイガーカウンターの音が鳴り続けた。基準値 100 カウントを超えたマグロは廃棄。汚染された船体や漁具は水で洗い流すよう指示が出た。



放射能汚染は南太平洋だけではなかった。「死の灰」は日本全土に注いだのだ。食物連鎖でさらに汚染は強まった。





実験からわずか7カ月。日本政府は突然マグロの放射能検査を中止。翌日からはすべてのマグロが日本の台所に運ばれた。

第五福竜丸の久保山さんの死後、世界を舞台にした被ばく事件は時とともに人々の記憶から消え去っていった。



ビキニ水爆実験被ばく船員の妻はいま語る。

「過ちを繰り返したくないと思う人が多くいないと、この問題は解決しない」「歴史的な事実が知られていない」「福島から遠く離れた高知では、放射能の被害を実感できない」「(被ばくの事実を)立証できないから怖い」

被ばく者、そして、遺族の真実の声を聞かなければならない。

**伊東** 次に、1200席の1隻、「新生丸」という船があります。乗組員たち、遺族たちの生の証言をご覧いただきたいと思います。

マグロ漁船新生丸部分



高知県安芸市のマグロ漁船新生丸。水爆実験中、ビキニ海域で操業、全員ではえ縄を上げている際、水爆実験を目撃。その後、「死の灰」をかぶった。  
乗組員は19名。そのほとんどが10代後半から20代の若者だった。高知県宿毛市内外ノ浦から7名が新生丸に乗りこんだ。



甲板員の1人は事件当時28歳。水爆実験を目撃、生前、「死の灰」がマスト横の棒につもったと証言している。妻は「あれはビキニの火じゃなかったらうかと言って」。



ともに水爆実験を目撃した同僚は喉頭がんのため61歳で亡くなっている。「家へ帰ったら窓を開けて血を吐いて死んでいた。たまげて腰抜かしました」と語る妻。







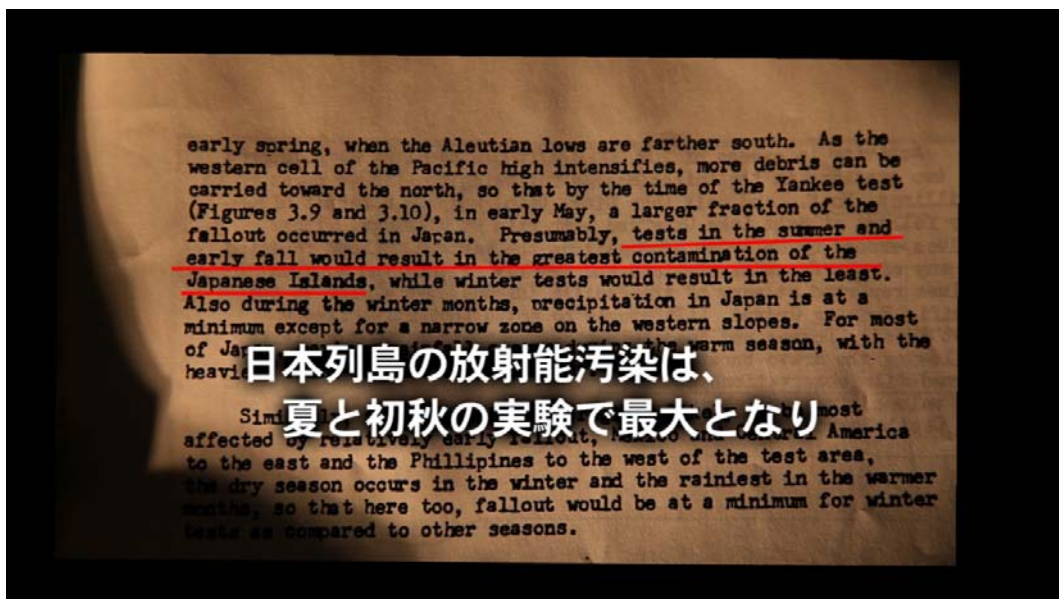
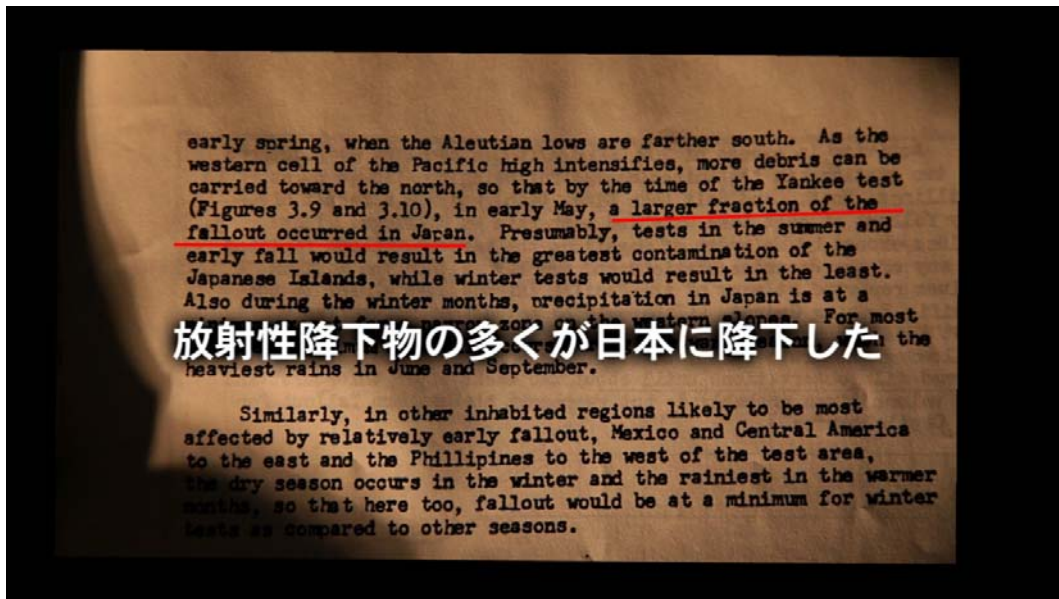
内外ノ裏から新生丸に乗りこんだ7人。唯一生き残った甲板員は、心臓のバイパス手術、胃の手術を受けている。「原爆の光を見たんですよ」。夜8時ごろだった。稲光みたいな光の後5～10分ぐらいの間に水平線に丸い太陽の倍ほどあるような大きな塊が浮かんだ一と。若くして亡くなった新生丸の乗組員たち。19名のうち生存者はわずか2名だった。

**伊東** いま、1隻見ていただきました。ほかの船がどうなっているかはそれぞれ調べていかないと分からないんですが、取材を進めていくと、こういうことが起こっている事実があります。最後に、当事者であるアメリカの原子力委員会の機密文書を昨年入手しました。それによって、いままで裏付けられなかった被ばくの事実が、状況証拠ではあるんですが99・99%そうではないかと言えだけの証明ができるようになりました。その部分をご覧ください。

アメリカ原子力委員会機密文書部分

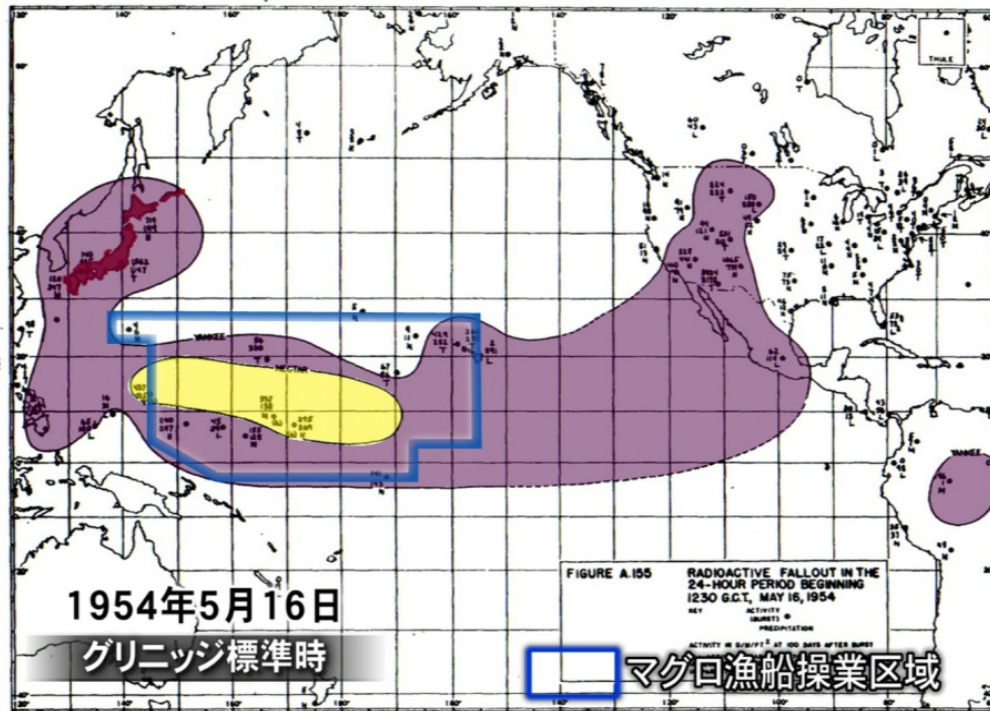


昨年3月、南海放送が入手したアメリカ原子力委員会の機密文書。

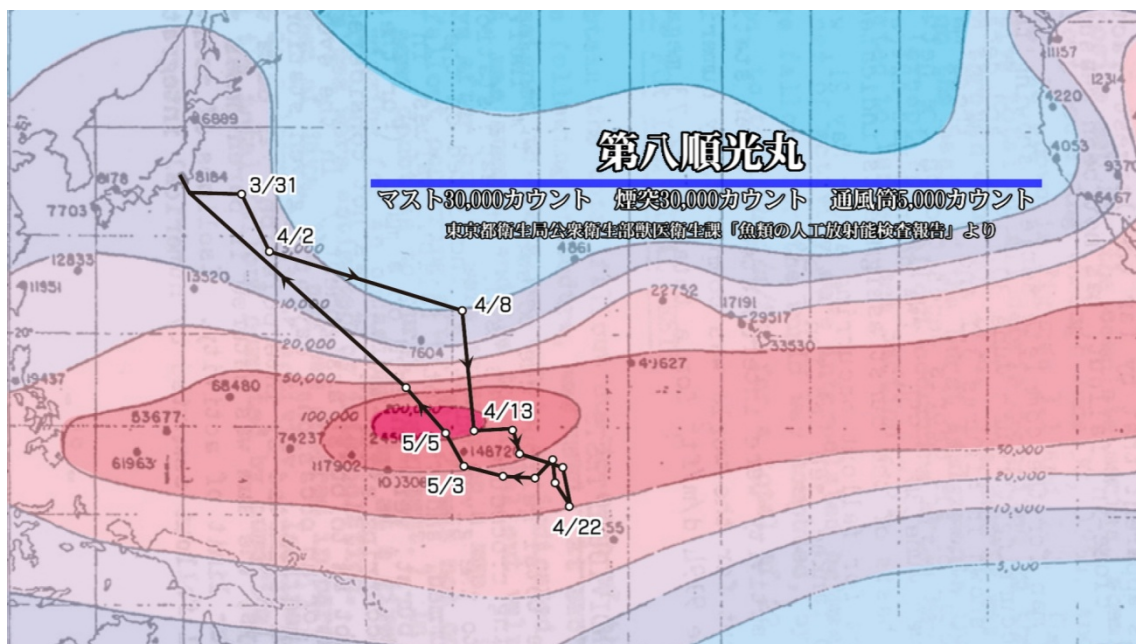


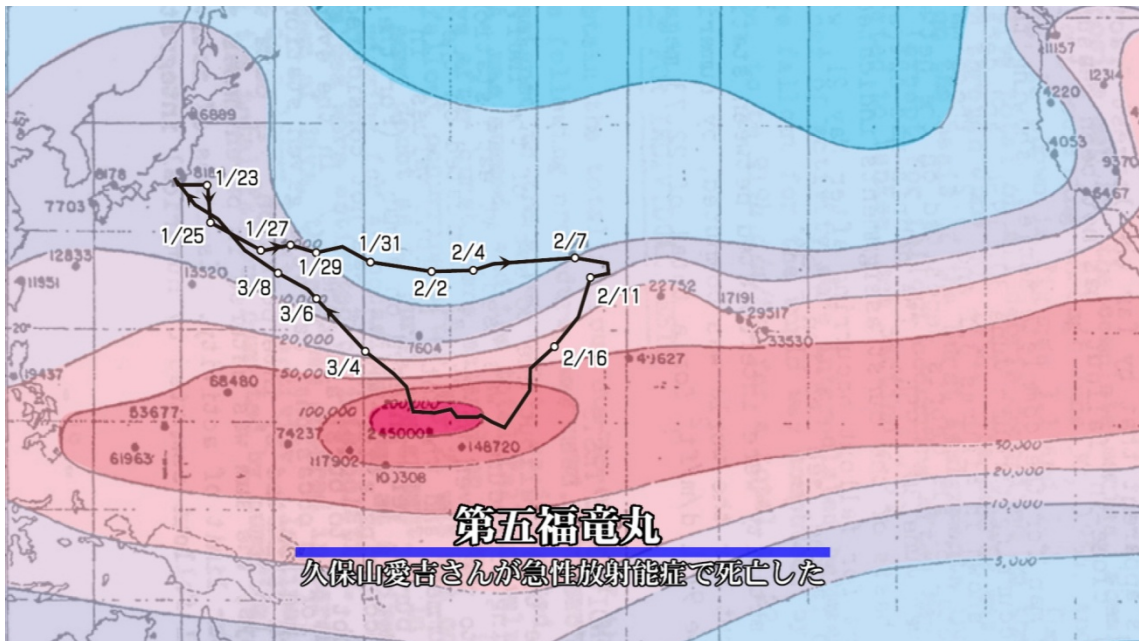
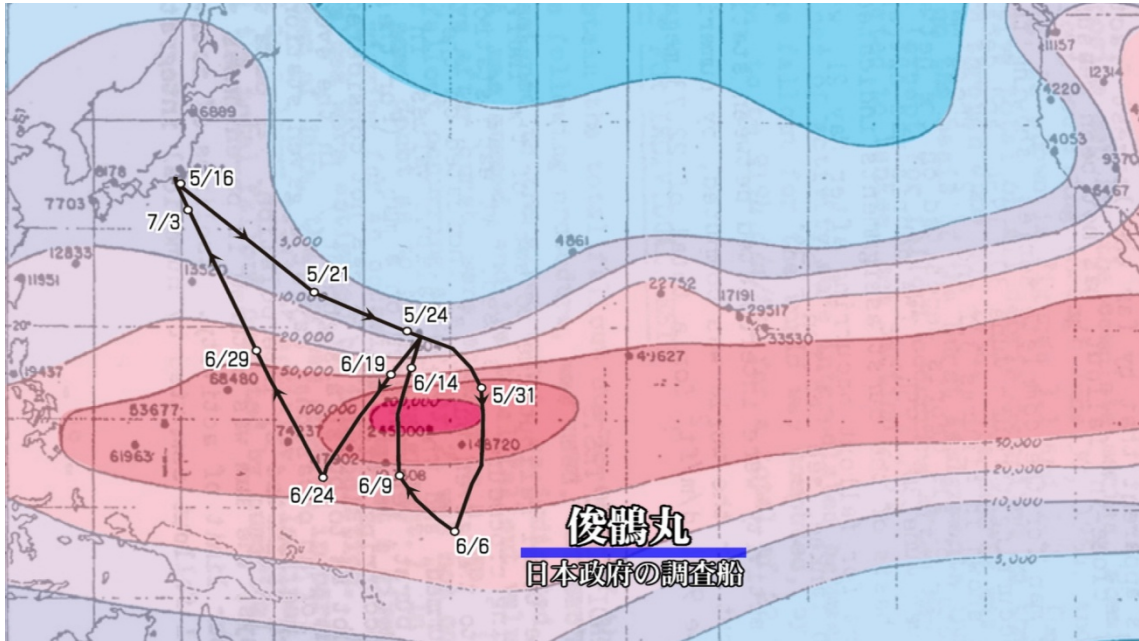
227 ページに及ぶ機密文書は 1955 年、アメリカ気象局を中心にまとめられたものだ。水爆実験による放射能汚染が克明に記録されている。





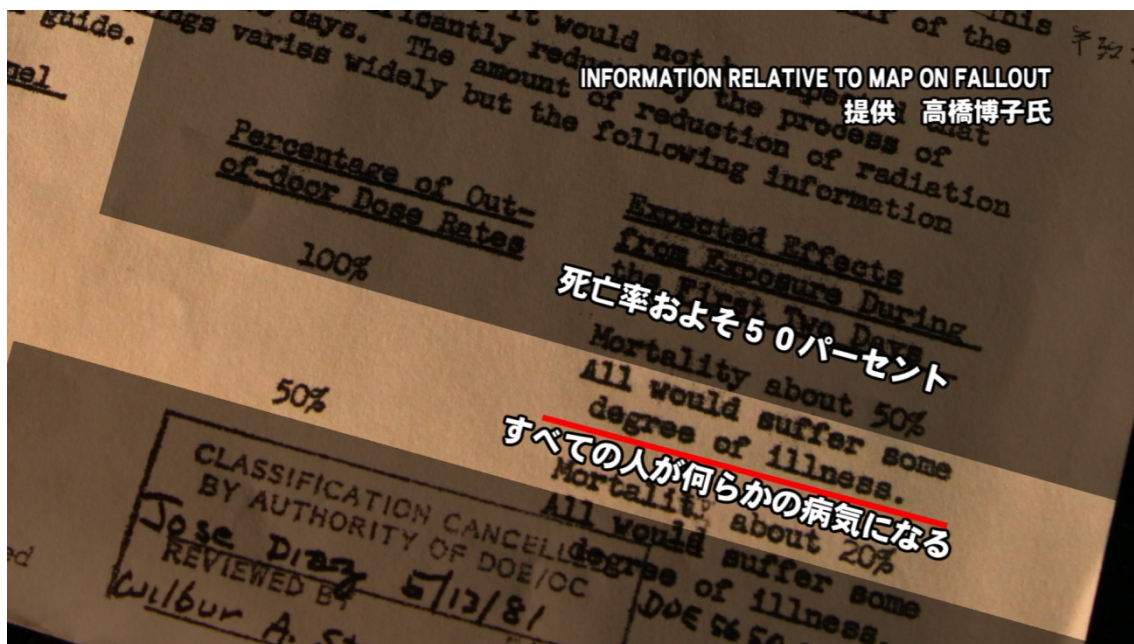
放射性降下物はマグロの漁場であるビキニ環礁を中心に世界中に広がっている。機密文書に記録された1日ごとの放射性降下物の広がり。1954年3月1日、多くのマグロ漁船が操業する中、アメリカは水爆ブラボーの実験を実施。放射性降下物はマグロの漁場を中心に東西に広がり、わずか1週間でアメリカ本土にまで達している。5月4日、5回目となる水爆ヤンキーの爆破実験を実施。5月13日、6回目となる水爆実験を実施。16日、日本がすっぽりと放射能におおわれている。





6回の水爆実験によって発生した放射性降下物の広がり。この図にマグロ漁船や調査船の航路図を重ねると、強い放射能で汚染された区域で操業していたことがわかる。マストや煙突から30000カウントもの放射能を検出した第八順光丸はさらに強い汚染区域を2度にわたって通過している。





調査団の山下さんが25年をかけ調査した被災船の被ばくの事実は、水爆を生みだしたアメリカ原子力委員会の機密文書によって裏付けられることになったのだ。

**伊東** みなさんももう耳にタコができるぐらい聞いたと思いますが、「ただちに健康に影響はない」という言葉を聞くたびに、取材中の被災者の人たち、遺族の人たちの言葉を思い浮かべました。たしかに「ただちに健康に影響はない」。でも、「そのあとに健康に影響はある」という歴史的な事実があります。で、これは、ビキニ事件の放射能は強いのか、福島事故の方が強いのか、は別にしても、オミットされているのは内部被曝です。「ただちに健康に影響はない」という内部被曝によって、ビキニ事件の場合はこういった現実があります。誰にも知られないところでこういった現実があるのです。内部被曝による死亡は加害者側からすると非常に有利なものです。被害者側からすると非常に不利なものです。結局、裏付けられないまま放置されていく。ビキニ事件の場合はこういうことが起こっている。じゃ、福島の場合はどうなのか。でも、いま現実に福島は現在進行形です。いま何をすべきかは、このビキニ事件から学んでいかななくてはなりません。あれほどの放射能の中をマグロ漁船が運航していた、また日本全土にも放射能が降っていた。これは事実です。ところが、じゃあ内部被曝しているのかどうかに関しては裏付けられていません。さきほども言いましたように99・999%まで間違いないけれども100%ではないのです。だからこそ、いま、ビキニ事件をひも解いて福島を見すえていかなければならないのではと思います。以上です。どうもありがとうございました。

(注：南海放送のこのドキュメンタリーは「棄てられたヒバク」のタイトルで本年5月29日、放映された)

**山根** 非常に貴重な映像を見せていただきました。全国の人びとが見ることができるよう上映されることを願っています。また、「フクシマ」に世界中が注目しているいま、いろんな国の言語に訳されて世界中の人びとに見てほしいDVDではないかと思います。